

Rocky Mountain Jiho

http://www.coloradojiho.com/

2010年 10月号



ワッキー時報

P. O. Box 1073
Denver, CO
80201
Tel. (303) 295-1848
Fax. (303) 295-0518
毎週水曜日発行

創刊年
1985年10月1日
Eメール
1985年10月1日

衆議院議員補欠在外選挙(北海道5区) 十月十三日(水) デンバー総領事館で

在留邦人の皆さまへ
衆議院議員補欠選挙
在外公館投票のお知らせ

在デンバー日本国総領事館

来る十月十三日(水)にデンバー総領事館で衆議院議員北海道5区の補欠選挙が行われます。

一、補欠選挙の対象地区

札幌市厚別区、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市においては(旧)石狩市、旧「厚田市」、旧「浜益村」と石狩郡当別町、石狩郡新篠津村。以上の選挙管理委員会名が記載されている在外選挙人証をお持ちの方が対象になります。

二、在外選挙の日程

告示日

平成二十二年十月十二日

在外公館投票日

平成二十二年十月十三日(水) 午前九時半から午後五時

日本国内の投票日

平成二十二年十月二十四日

投票記載場所

Consulate General of Japan at Denver
1225 17th Street
Suite 3000 Denver
80202 十七番ストリート・プラザビル 三十階

Email: cgjid-consul@quest.net ホームページ: http://www.denver.us.emb-japan.go.

四、当館以外での

在外公館投票

当館以外での、在外公館投票を実施する日本大使館・総領事館(出張駐在官事務所を含む)であれば、在外選挙人証及び旅券等の顔写真付き身分証明書があれば、いずれの地でも投票できます。在外公館投票をすることの出来る在外公館につきましては外務省のホームページ等でご確認ください。

五、郵便投票

在外選挙の方が登録されている衆議院北海道5区の市町村選挙管理委員長に対して投票用紙の先の市区町村選挙管理委員会宛に投票用紙等の交付請求を行い、直接郵便で投票することが出来ます。

詳しくは総務省のホームページ http://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/senkvo/index.html 等を参照ください。

六、日本国内での投票

選挙のときに一時帰国している場合在外選挙認証を提示して投票する方法があります。詳しくは

在デンバー日本国総領事館 電話(三〇三)五三四一 一一五一 領事班まで

コミュニティ行事

衆議院議員北海道5区補欠選挙在外選挙投票

十月十三日(水) 午前九時半から午後五時まで
在デンバー日本国総領事館

デンバー日本語補習校

バザー 十月十日(日)

午後一時四十分～三時四十五分
5000 S Santa Fe

デンバー日本語補習校(アラパホコミュニティ短大内・校長清水秀子博士)では秋のバザーを催す。焼きそば屋台、綿あめ、フェイスペインチングン等を用意。古本、ビデオなどのヤードセール 収益は学校に寄付される。

北京子さん死去



草月流の師範としてコ罗拉ドでいけばなの普及につくした北京子さん(八四)が去る九月十日に急逝した。北さんはご主人北八郎さんとともに一九七五年にコ罗拉ドに移住、いけばなのほか表千家の茶道、料理などの教室を開き日本文化の普及に尽くした。「草月コ罗拉ド支部」をそだて今年四月には外務大臣表彰を受けた。十八日にクラウンヒル葬儀場でもうされた追悼式には三百人以上の人々が参列した。

デンバー植物園日本庭園で 茶の湯のデモンストレーション

秋晴れの十月三日、新装なったデンバーボタニックガーデンの松風園で茶の湯のデモンストレーションが行われ二百人の同好者を迎



写真上 月見台の野点と茶室内
左 久保総領事と招待客たち

えてにぎわった。この茶会は表千家の茶道師範を中心に新しく組織された「松風会」のメンバーたちによって主催され、収益は茶室と改装される日本庭園の改修に充てられるという。



コ罗拉ドの日本語学校 合併の方向に

日本企業懇話会によって運営されてきた「デンバー日本語補習校」と現地定住者たちの日本語学校「ロッキースアカデミー」の合併が話し合われている。

この背景には帰国して日本の学校に入学する進出企業の子弟が減少する一方、日本語教育を希望する定住者の児童数の増加がある。

両校の合併が実現すれば日本政府からの教師派遣や教材補助の拡充が見込まれ、従来の補習校が日本語や母国の文化を伝承するための総合的な学園に生まれ変わるという。

「日系人のコロラド」 出版でん末記②



北京子さんの思い出
私たち夫婦がデンバーに定住しようとしていた一九七六年、日本から引退してデンバーにやってきた北八郎・京子夫妻にリトルトンのドクター大石宅で初めてお目にかかった。

八郎氏はハワイ出身の二世で戦後日本に進駐してアメリカ陸軍の情報関係の仕事をしてきた人だった。永年の日本勤務を終えて友人知人さらには京子さんの縁者が住むデンバーを第二の人生を送る地を選んだという。このとき八郎氏は六十五歳、京子さんは五十五歳だった。子どものいないお二人だったがこのとき「私たちに子どもがいればちょうどあなた達くらいの子なのね」といわれたことを思い出す。

北京子さんは中野で開業していた岡本病院の長女で戦前の時代にも日系アメリカ人二世との接点があったそうである。二世達がジャズのミュージシャンとして東京に来ており患者として岡本家に入りりしていたという。デンバーの日本人社会で東京出身者は非常に少ないに話が合った。京子先生とお付き合いさせていたがいて三十有余年、いちはん印象に残っているのはお茶、お花、料理、琴、三味線、長唄など多芸多才なうえに求心力のある方だった。デンバーでの日本文化紹介の民間大使として欠かせない人を私たちは失った。謹んでご冥福を祈ります。
今田英一 順子